

昇温脱離分析装置を主力製品として、各種材料の研究開発や品質管理に役立ちます。電子部品、金属、ガラス、セラミックスなど、幅広く先端材料の研究開発に利用されています。



昇温脱離分析装置 TDS1200 II



昇温脱離分析装置 IH-TDS1700



光励起脱離分析装置 PSD120vuv

得意な技術・製品

弊社は、質量分析装置の製造販売からスタートし、現在では昇温脱離分析装置を主力とする機器分析装置製造メーカーです。

昇温脱離分析装置は、超高真空中で試料をプログラム昇温した際に試料から脱離する化学種(原子や分子)を四重極質量分析計(QMS)でリアルタイム検出する分析装置です。

この装置の技術的構成要素は以下のようなものです。

- ・ 超高真空の実現：ガス放出・透過の少ないチャンバ
- ・ 超高真空の維持：ロードロックチャンバ
- ・ クリーン加熱：ガス放出のない加熱機構
- ・ 昇温制度：完全制御された加熱
- ・ 高感度検出：質量分析装置
- ・ 高速排気：ターボ分子ポンプ
- ・ 定量精度：NIST トレーサブルな感度校正、AIST と共同研究

主要な技術・製品

1. 昇温脱離分析装置 TDS1200 II

主力の昇温脱離分析装置で、 1×10^{-12} mol 以下の放出ガスを種類別に定量することができます。

2. 昇温脱離分析装置 IH-TDS1700

鉄鋼中の水素濃度を測定するための分析装置です。2つの運転モードがあり、Lモードでは $-100 \sim 800^{\circ}\text{C}$ 、Hモードでは室温 $\sim 1700^{\circ}\text{C}$ の放出ガス測定が可能です。

3. 光励起脱離分析装置 PSD120vuv

有機物最表面の官能基を調べる分析装置です。波長が $120 \sim 300\text{nm}$ の真空紫外光を分光して照射することで、有機物の化学結合を選択的に切断して、官能基を分析します。

■生産拠点、研究体制：本社工場(武蔵野市)

■主要設備：受託測定用昇温脱離分析装置3台、内訳・低温($-100 \sim 800^{\circ}\text{C}$)、高温(室温 $\sim 1700^{\circ}\text{C}$)切換え型1台・清浄試料分析用1台・金属ガスなどの分析用1台

■得意な顧客、市場分野：半導体、MEMS、フラットパネルディスプレイ、太陽電池、二次電池、LED、めっき、鉄鋼、非鉄金属、ガラスなど

■主要取引先(企業名)、顧客構成：大学・公官庁の研究所、民間企業の研究所および品質管理部門、都立産業技術研究センター、産業技術総合研究所など

■今後挑戦したい産業分野：インフラメンテナンス(コンクリートの劣化診断)

▶ 公的支援利用状況(直近3～5年以内)：連携イノベーション促進プログラム助成事業、海外展開技術支援助成事業、ものづくり補助金

デンシカガク カブシキガイシャ

電子科学 株式会社

●資本金:5,000万円 ●従業員数:15人 ●設立年度:1978年

●連絡窓口(名前):宮林延良

●所属団体:日本分析機器工業会、首都圏産業活性化協会

所在地:〒180-0013 東京都武蔵野市西久保1-3-12 オークビル3F

電話:0422-55-1011

FAX:0422-55-1960

<Eメール>

sales@escoltd.co.jp

<ホームページ>

http://www.escoltd.co.jp